

文学の森：

コマーシャリズムと出版業主に関する考察

文学の森には、
たくさんの木々があります。

その木々は、それぞれが芸術作品であり、
同時に大きなタペストリーの
一部となっています。

空高く聳える巨大な杉もあれば、
傍らに置かれる小さな盆栽もあります。

林冠を形成するデリケートな
シダーの木々もあれば、
光を避け、上手に隠れるものもあります。

しかしながら、
これらはすべては同じ運命を辿ります。

すべてが利益で正当化され、
お金が全能の社会では、
商業主義のチェーンソーや、
産業のブルドーザーが、
容赦なく襲いかかります。

文学は
市場の本棚に載る商品です。
売れない言葉の集合は、すぐに堆肥になります。
金銭価値のない言葉は、すぐに腐敗します。



玲亜： この悲哀に満ちた詩の、何がよいのですか。

ミン： そうだね。商業主義がないと思うのは、世間知らずではないですか？

ティム： 皮肉に毒されないで！ 初めは世間知らずに見える考えは、歴史を変えます。

ミン： う〜ん！誰が歴史をそんなに単純だと言ったのですか？僕は、歴史はよく変えられるものだと思います。

- T Newfields (和訳：新田博)

開始：1995年静岡 ★・完成：2016年新台北市

